

エエ人 だいとう

念願のドラフト1位指名、 夢を叶えてプロ野球選手に

横浜DeNAベイスターズ
竹田 祐さん (25歳)



平成29年3月号の「だいとう」で将来の夢を聞かれ、「まずはプロ野球選手になりたい」と答えた高校球児が、夢を叶えました。昨年横浜DeNAベイスターズからドラフト1位指名を受け、プロ野球選手となった本市出身の竹田祐投手に話を聞きました。

市内の少年野球チーム「オール住道」で野球を始めてから、名だたる強豪チームで活躍してきた竹田投手。今の気持ちを尋ねると、「小学校の時からプロ野球選手をめざしてやってきました。まずは夢が叶ってうれしいです。今は25歳。即戦力を期待されていると思うので、それに対する責任を感じています」と話してくれました。

人生で一番悔しい経験

順風満帆に歩んできたように見えませんが、人生で一番悔しかったという2回のドラフト指名漏れを経験しています。しかしそんな時でも、深く落ち込んで腐ることはなく、「あの時に自分の実力や評価を真摯に受け止めて、日々の練習に打ち込んだ結果が、今回の指名につながったと思う」と、前向きにとらえています。

一番うれしいのは弟が頑張っている姿を見ること

野球以外で心が動かされるのは、弟の試合だと即答でした。4歳離れた弟は、昨年12月のアメリカンフットボー

ルの全日本大学選手権決勝で日本一に輝いた、立命館大学の竹田剛選手です。「弟の試合はよく見に行きます。オフが合えば家で集まり、食器の片づけや風呂掃除をかけて、野球のテレビゲームで盛り上がっています」と、共にスポーツ界で活躍する竹田兄弟の仲の良さがとても伝わりました。

原点である大東公園

初めて「オール住道」に参加した日のことは今もよく覚えているといいます。「自分が全くなかったことが本当に悔しくて、その日のうちにバッティングセンターへ行ってたくさん練習しました。今につながる野球漬けの日々の中でも、大東公園は原点だと話します。「幼い頃から、週末も長期休みも、大東公園で自主練やトレーニングをしてきました。走ったり、素振りしたり、ノックしたり、父がずっと付き合ってくれました。」

大東市で育まれた家族の絆

小さい頃から、体作りのため食事を多く摂るように気を付けてきたそうです。「一楽食堂」、「ステーキハウス三ツ川」、「ラーメン荘おもしろい方へ」など、家族と通った思い出の店を教えてくださいました。何よりたくさん食べてきたのは、お母さんの栄養満点のご飯。「家に帰れば、すごく豪華な食事を作ってくれます。栄養バランスの整った手料理を持ち帰らせてくれて、

母に感謝です。」

幼い頃からお父さんとお母さんの愛情のこもったサポートを受けてきた。そして妹さんや弟さんは、オフの時間をリラックスして過ごすかけがえのない存在。大東市で育まれた家族の絆が、竹田投手の強さを支えているのだと感じました。

頑張り続けていれば、いつか夢は叶う

今後の夢や目標を聞くと、「プロ野球選手になった今、次は夢を与える仕事だと思っています。まずは1年目から活躍し、球団の顔だと言ってもらえるような選手になりたいです」と話します。

最後に、大東の子どもたちへ向けて「頑張り続けていれば、いつか夢は叶います。これを自分は体現できたと思っています。どんな壁にぶち当たっても、頑張り続けることが大事だと伝えたいです」とメッセージをくれました。

竹田選手から
プレゼント

3月25日
締め切り



直筆サイン入り色紙を
2人にプレゼント

大東市の好きな所
を書いて応募フォー
ムから申し込み
してください。



いきいきと
輝いている人を
ご紹介ください。

自薦、他薦は問いません。文化活動やスポーツ、地域活動などで輝いている人のご応募をお待ちしています。テーマは自由(政治・宗教・営利を内容とするものを除く)で、千字程度。写真を添えて〒574-8555 秘書広報課へ持参か郵送。多数の場合、選考します。原稿は一部文章を修正、削除することもあります。原則、1人1度限りの掲載になります。